

## 平成22年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成22年12月13日（木）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

### 事例発表

地 区 保土ヶ谷区 千丸台地区

テーマ 「地域住民のために活かそう地域力！」

発表者 みなみで としお 南出 俊男 さん（千丸台地区社会福祉協議会会長）

**南出** みなさん、こんにちは。千丸台の南出です。

若い人からどんどんと活発な御報告がありましたが、80に手の届きそうなおじさんがこれからそれに負けないように頑張ろうかなと思っていますので、御協力のほどよろしくお願ひいたします。

千丸台団地は昭和39年に、当時の港北区の一番はずれに出来た団地です。44年には区が分割して保土ヶ谷区となりました。保土ヶ谷区となったんですが、相変わらず区が一番片隅ということで、一步下がれば旭区、一步右に寄れば緑区というようなところでございます。ただし、横浜の中では中心的な位置にございます。

そんな千丸台団地ですが、39年には1,040世帯が入居しました。当時は大変若かったんです。みんな若くて、子供も2,000人を超えるかというほどたくさんいました。しかし年月が経つにつれ、子供たちは団地から巣立っていきました。その後に残ったのが、定年間近なおじさんたち、おばさんたちばかりということです。建物は、テラスハウスという簡易の住宅を建て替えて、現在は大変立派な高層住宅、ハイツというところに建て替わりました。

高層になり1割程住民が増え、現在は1,174世帯が入居しておりますが、入居者の43.7%が高齢者になっております。大変、高齢化の進んだ地域でございます。

それに加えて、やはり公営住宅ということで、障害のある方等の自立という意味で、社会復帰等も含めて障害のある方も多く含まれております。その人たちも含めると、皆さんの支援を必要とする層は本当に半分を超すのかなと思っています。公的なサービスを受けることさえできない低所得の方もたくさんいらっしゃいます。そんな方たちの支援を地域として何かできないだろうか、と考えながら、千丸台地区社協の活動を進めてまいりました。

千丸台団地では、話し合いのもと、基本的に自治会と地区社協の活動分野をはっきりと分担しております。というのは、競合して仲が悪くなったりしないような地域にしていきたいからです。防犯・防災や環境衛生等の一般的な自治活動については自治会が担い、福

社に関わることについては地区社協が担う。そんな建前をきちっと守って活動しております。ですから、私たちの団地の中でそういったいさかきもなければ、競合する問題も出ておりません。

自治会には色んな委員会があり、きちんとした組織がありますけれども、地区社協については同じ地域の住民で構成しながら、ボランティアさんだけの活動となっています。どうしてそれを切り分けないといけないかというと、やはり個人情報の問題、プライバシーの問題が大きく関わっております。「誰でもいいよ」と言える内容はありません。今日ここに出しましたスライドもそうなんです。地域として写真はできるだけ撮らないようにしております。写真を撮りますと、それが個人情報の問題につながっていきますので、できるだけ避けようということで、スライドもなかなかできない状況です。まあ、自分の技術の問題もありますけど...

お手元の社協の事業と活動内容という資料を御覧いただければと思います。まず表紙にございますこの絵は、区社協のボランティアさんに無料で作っていただいたマークです。団地全体が仲良くやっぺいこうと作ったものです。

2 ページですが、地区社協の事業は6本の柱になっております。まず第一に、見守り活動。これは地域を把握するためにはまず地域の中の情報を集めることが一番ということで、見守りをやっております。この見守りには、民生委員さんと地域住民の皆さんの情報が大変重要になってきます。区で行っている安心訪問活動に、地域としても民生委員に5名程度の住民の方を担当してもらい、一緒に取り組んでおります。基本的には月に1回の訪問ですが、人によっては月に2回、3回と民生委員さんを通して見守りをやっています。訪問と訪問の間に1回はみんなで分担して、必ず電話での安否確認をやっております。

次に、「花一輪訪問活動」がございませう。これは児童福祉部会で作り上げた花をそのまま切って皆さんのお宅に届けながら安否確認をするというものです。そして、配食サービスを週に1回行ってありますが、その配食サービスで得た情報等を、その日のうちに事務局に集め、情報の一本化に努めております。緊急の場合には、その情報を参考にしながら対応するようにしています。

ところが、そういった情報集めだけでは情報が偏ってしまう。一人の人に幾つもの情報収集手段を持っているんですが、全く関われない方もございませうので、見守りネットという事業を始めました。平成18年にやっとスタートできました。

当初、やはり色々なところに問い合わせ、協力を呼び掛けましたが、残念ながら個人情報に関わることは、行政も地域ケアプラザもなかなか手を出し切れなかった頃です。この当時から一番、個人情報の問題が取りざたされた時期なんですね。

それならば、地域の中でやっぺいこうということで、私たちだけで取り組み始め、2年ほど経過して、やっと個人情報よりも人の命が大切だろうということで、地域の見守り活動に関して行政も動いてくれました。幸い、千丸台団地をモデル地域として取り上げていただき、助成金を頂きながら、見守り活動に取り組むことができました。

今まで、家の鍵を預かったりしていたんですが、住宅の中から助けてほしいという声を発信してもらえるように、助成金を活用して回転灯を作りました。これがその回転灯です。

これも「赤いランプがいい」とか、色々な話が出ましたけれど、やわらかく、そして犯罪防止にも使えるのではないかとということで、音の出るものを選びました。これをペランダに付けて、大変なことが起きた時に点灯していただき、私たちが預かっている鍵で中に入るという方法としました。1,174世帯のうち230世帯近くに申込みをいただき、設置しました。これからもどんどん進めていきたいなと思っています。

この見守りネットですが、これから、どうしていけばいいか。住民にもこの対応策をお伝えしなければいけないし、まず、出入りしている業者さん、商店会、介護サービス事業者さん、新聞屋さん、善意のある人たちすべての方にお願ひしました。安否に関わる不自然なことを発見したときには、御連絡いただくようにとお願いをしております。

その連絡先はこの携帯電話なんです。この携帯電話の番号一本に窓口を絞りました。その方が気楽にここへ情報を提供していただけると考えたのです。これが最善とは言いませんが、これからも一層内容のある情報を集められるよう励んでいきたいなと思っています。こうして得た情報を二月に一度、行政、ケアプラザ、それから民生委員さん等で話し合う機会を持っております。地域にとってより良い対策になるよう内容を発展させたいと考えております。

2番目ですが、在宅自立支援につなげていきたいということで、移送サービスや配食サービス、転倒骨折予防体操の普及事業、色々な相談活動等もやっております。

3つ目ですが、団地の問題はお年寄りや障害のある方の問題ばかりではありません。家庭的な問題で恵まれないお子さんもいらっしゃいますので、そういったお子さんへの支援策を学校とも連携・協働して色々取り組んでおります。

4番目に、それら皆さんの情報を集めるのに一番いい形はどういうことなんだろうと考えた結果、やはり、道で会って顔の分かる関係でなければいけないということで、地域交流事業にも取り組んでいます。

5番目ですが、先ほど話の出ていた広報も大切で、私たちも取り組んでいます。

6番目、最後になりますが、これが地域活性化事業です。地域活性化の中で最も必要とされるのが、癒しの環境であると強く感じております。お年寄りも大変お疲れになっておりますが、精神的に疲れている若い人たちも大変増えてきております。大したことはできませんが、そうした若い人たちが、少しでも心を柔らげ、癒しの環境ができればということで、今、花による環境事業を少しずつ進めています。こういった形で団地の中でみんなが安心して住めるような地域にしていきたいと努力しているところでございます。

夏ごろですが、松下政経塾の塾生から「アンケートをとってもらえないか」と連絡がありました。政治家を目指す方ですから、私たちが住民の皆さんに事前の連絡はするが、やはり実際に自分の目で見て、足で集めて欲しいとお願いをし、アンケートをとっていただきました。

その答えが戻ってきました。不安を感じている人は75%いますが、私たちの地域で孤独感を感じている人は30%なんです。近隣の関係が大変良くなってきたのかなという評価でございました。これからもこういった活動を進めながら、さらに住みよい地域づくりに努めたいと思っております。

本当に簡単な説明になりましたけれども、以上です。ありがとうございました。